

3月4日朝会の校長の話(概要)

先日、学校にある大学生から連絡がありました。谷中小にいた先生で戦争中の集団疎開についてお話を聞きたいとのことでした。調べてみると30年くらい前に谷中小にいた先生で今度連絡をすることになりました。戦争の頃というと今から79年前、1945年3月10日は東京大空襲と言って、アメリカが東京に爆弾をたくさん落として、台東区でも浅草の方が壊滅して多くの人の命が失われた日として語り継がれています。ですが、その日よりも前、3月4日、まさに79年前の今日に、空襲があって谷中地区や千駄木地区に爆弾が落とされたのです。当時の谷中小の子供たちも校舎の地下に避難したそうで、谷中小にも爆弾が落ちて、停電して怖かったことや、町の被害の様子が恐ろしかったことなどを話した記録が残されています。戦争が終わっても、家も食べ物もなくて、中には家族も亡くして大変な悲しみや苦労がありました。そう考えると、今の世の中は、物も豊かで恵まれていると言えます。命を大事にするとは、毎日の当たり前前に感謝しながら、目標をもってよりよく生きることだと思います。

子供たちにしっかりと栄養を取ってほしいと今から70年前に学校給食法という法律が制定されました。みんなは谷中小学校の給食好きですか？当たり前と思わずに毎日しっかり味わって食べましょう。



【谷中で戦争を語りつぐ会～1945年3月4日を忘れない より】